



56 鶏の図 川村清雄 明治~大正期(20世紀) 油彩、色紙 本紙25.5×22.7

川村清雄(1852~1934)は明治大正期に活躍した洋画家である。イタリアに留学し、本格的な油彩技法を身につけ、帰国後は日本的な油彩画の完成を目指して独自の道を切り開いた。川村は幕臣の家系出身で、徳川宗家の給費生として留学するなど、維新後も徳川家との深いつながりがあった。本作は妃殿下がご成婚の際に、徳川家より持参されたものである。殿下が薨去された後、御遺品として秩父宮勢津子妃へ贈られた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

若梅に撫子——旧高松宮家と伝来の品々

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 62

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十五年三月二十六日発行

© 2013, The Museum of the Imperial Collections